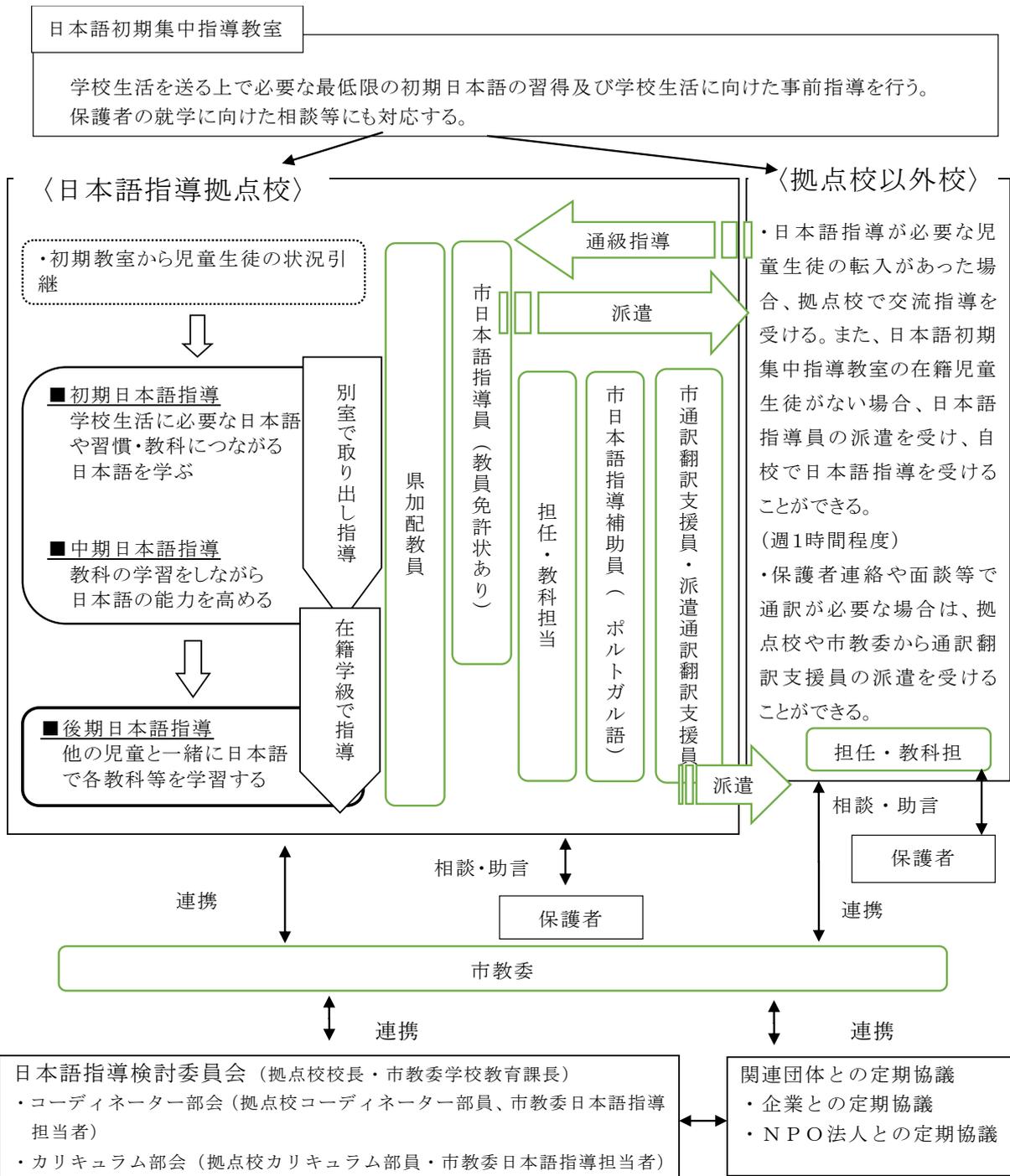


令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 ( I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること  
具体的な活動内容

(1) 運営協議会・連絡協議会の実施

【運営協議会】

- 日本語指導に係る検討委員会(構成員:拠点校長、学校教育課長)
  - ・実施回数:4回
  - ・実施目的:市内の日本語指導についての現状と課題の協議
  - ・協議内容:今年度の日本語指導方針、日本語指導におけるICTの活用、中学生の進路保障、次年度の日本語指導が必要な入学生の情報交換等
- 企業との定期協議(構成員:企業関係者、学校教育課担当者)
  - ・実施回数:5回
  - ・実施目的:市内の外国人労働者の現状や日本語指導が必要な児童生徒の転入見直しについての協議
  - ・協議内容:外国人労働者およびその家族の日本への転入見直し、日本語指導拠点校への支援内容等
- NPO団体との定期協議(構成員:NPO代表、学校教育課担当者)
  - ・実施回数:3回
  - ・実施目的:過年齢の外国にルーツのある生徒の支援についての協議
  - ・協議内容:過年齢生徒の学習機会、高校受験に向けての取組等

【連絡協議会】

- 日本語指導に係る検討委員会の専門部会(コーディネーター部会、カリキュラム部会)
  - ・実施回数:コーディネーター部会3回、カリキュラム部会3回
  - ・実施目的:拠点校間の情報共有や出雲市カリキュラムの見直し
  - ・協議内容:拠点校での日本語指導の時間割の作成、初期・中期カリキュラムの情報交換、特別の教育課程の編成  
個別の指導計画の作成・振り返り等

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築 (必須実施項目) ※構築済み

- 昨年度から、日本語指導が必要な児童生徒が多く在籍する小学校3校と中学校3校を日本語指導拠点校(以下「拠点校」という。)と位置付け、市日本語指導員(教員免許状所有者)、通訳翻訳支援員(ポルトガル語)、市日本語指導補助員(日本語・ポルトガル語が話せる、教員免許状は無)を集中的に配置した。
- 来日または帰国後間もない児童生徒で初期からの日本語指導を必要とする者については、在籍校での学校生活をスタートさせるにあたり、20日間、初期集中指導教室へ通級させ、サバイバル日本語の習得及び学校生活に必要なルールやマナーについて指導した。

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施 (必須実施項目)

- 個別の指導計画を作成し、「特別の教育課程」による日本語指導を実施(PDCA サイクル)
  - ①「特別の教育課程」の編成、指導実践(4月～9月)
  - ②個別の指導計画の見直し、必要に応じた修正(9月～2月)
  - ③達成目標の評価、次年度に向けた指導計画の見直し(2～3月)
- 研修会の実施
  - ・出雲市日本語指導研修(年2回 ※今年度は新型コロナウイルス感染症のため1回中止)
    - 参加者 市内小・中学校教職員、市日本語指導員等 計45人
    - 内容 市の日本語指導の現状、拠点校交流学習の様子  
学習言語の理解を深める指導の工夫等

(5) 学力保障・進路指導

- 拠点中学校での外国籍ロールモデル人材との意見交換会の実施
  - ・日本の小学校、ブラジルの中学校・高等学校で学習し、現在日本で働いている方から、学校での学習に向かう姿勢などについて話を伺った。
- 拠点中学校での科学体験教室(シエンシア教室)の実施
  - ・干支のできた理由を学習した後に、令和3年の干支である丑の置物を木工で作成した。その活動の

中で、日本語のキーワードを覚え、日本語でコミュニケーションを図った。

○拠点中学校での公立高校説明会の実施

- ・生徒やその保護者を対象に、島根県の公立高等学校の教育制度や入学試験について説明した。

(6)日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

○市日本語指導員(週 20～28 時間×35 週、小学校 16人・中学校 5 人・初期教室 2 人)の配置・派遣

- ・個別の指導計画に基づき取り出しの日本語指導、学習支援

○市日本語指導補助員(ポルトガル語対応、週 28 時間×35 週、小学校 3 校各 1 人、初期教室 1 人)

- ・対象児童に対する生活場面(休憩時間、給食、掃除等の寄り添い支援)及び学習時の入り込み支援
- ・対象児童の保護者支援(電話連絡や来校時の通訳、連絡帳など簡単な内容の翻訳など)

○市通訳翻訳支援員(ポルトガル語対応、年間 1,581 時間、拠点小・中学校に 3 人)

- ・対象児童生徒及び保護者との面談、学習場面等での通訳支援
- ・保護者宛て文書や各種書類、児童生徒への配布物や教材等の翻訳支援

(12)成果の普及 (必須実施項目)

○出雲市教育委員会学校教育課ホームページで、今年度の取組状況と成果を公表。(3 月末)

(13)その他 (日本語指導教職員研修及び管理職研修等の実施)

○研修会の実施

- ・出雲市日本語指導研修(年 2 回 ※今年度は新型コロナウイルス感染症のため1回中止)

参加者 市内小・中学校教職員、市日本語指導員等 計45人

内容 市の日本語指導の現状、拠点校交流学习の様子  
学習言語の理解を深める指導の工夫等

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1)運営協議会・連絡協議会の実施

○成果

- ・出雲市に転入してきた児童・生徒がスムーズに就学できるような仕組み作りができ、拠点校、関連機関と共通理解を図ることができた。
- ・拠点校での日本語指導について情報交換をしたことで、各校において共通して取り組むことができる内容や教材の活用方法について共通理解することができた。

●課題

- ・中期カリキュラムの情報交換において、中学生は特に個人差が大きく共通して取り組むことができる内容を見出しにくかった。今後は、日本語指導を通しての自尊感情の醸成をねらいとした学習内容・手立てを探っていく。

(4)「特別の教育課程」による日本語指導の実施 (必須実施項目)

○成果

- ・特別な教育課程の編成の見直しを年度途中(10 月)に行ったことで、実態に応じた個別指導を行うことができた。
- ・個別の指導目標を達成した児童:99/113 名、生徒:34/48 名、合計:133/161 名

●課題

- ・取り出し指導と在籍学級での指導をより深く結びつけるために、日本語指導担当者と担任や教科指導教員が、個別の指導目標や課題、支援の方法などについて、より一層の情報共有を図る必要がある。

(5)学力保障・進路指導

○成果

- ・ロールモデルの講義を受講した全ての生徒が前向きな気持ちを持つことができた。
- ・生徒・保護者の両方にとって、島根県の公立高校の入試や学習体制等、母国との違いを理解するのに大変有意義な説明会になった。来年度から公立高校で始まる日本語指導が必要な生徒への支援

についても説明があり、進路選択の一助となった。

●課題

- ・母国(ブラジル等)と日本の高校制度の違いが大きいため、特に保護者にとっては早い時期(子どもが小さい時や入国後早期等)に情報提供が必要だと感じた。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

○成果

- ・個別もしくは少人数グループでの指導を行い、日本語能力やコミュニケーション力の向上が見られた。また、児童生徒の苦手なところを重点的に指導することができた。
- ・保護者への母語支援が充実してきた。特に進路に関する面談での正確な通訳により、学校と保護者の意思の疎通が図れた。また、母語支援により児童生徒が安心して生活できている。

●課題

- ・日本語指導の期間が長くなると、日本語レベルJSLステージの向上が難しくなる傾向がある。一人一人の実態に合った個別の指導計画を立てて、その目標達成の積み重ねを大事にした指導を行う必要がある。

(12) 成果の普及 (必須実施項目)

○成果

- ・本市の日本語指導の取組について、市HPを通して広く周知することができた。

●課題

- ・海外からも出雲市の転入の仕組みが分かるような内容を市のHP等に公表して、出雲市に転入する前に概要がつかめるような配慮の必要性を感じた。

(13) その他 (日本語指導教職員研修及び管理職研修等の実施)

○成果

- ・拠点校の実践発表を通して、学習言語習得のための授業の工夫について共通理解することができ、日本語指導と教科学習の統合の重要性についても学ぶことができた。

●課題

- ・今年度は新型コロナウイルス感染防止のため研修を1回中止にした。日本語指導は個に応じた指導が求められるので、さらに指導方法や教材研究等の研修を実施する必要がある。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	100%	100%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	88%	71%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

- 校内支援体制についての研修を実施したり、拠点校における日本語指導コーディネーターの役割を強化したりして、組織的指導をさらに進める。
- 小学生の日本語指導が必要な児童とその保護者に対して、高校説明会を実施する予定である。
- 出雲市で学んで進学した先輩や社会人になった先輩の講義を実施するために、ロールモデル講師の選定を工夫していく。
- 個別の指導計画がより効果的に機能するように、短いスパンで定期的にチェックしていくように共通理解する。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。